

ビジネスハイライト

2018年度上期のビジネスの動きをお知らせします。



詳細は
P10へ

11

詳細は
P11へ

4

2

6

8

1

5

10

7

3

- 1 2018年5月16日/フィリピン
新産業金融事業グループ
新興中間層向け住宅デベロッパーを設立
- 2 2018年5月22日/日本
エネルギー事業グループ
藻類由来タンパクの生産・食品開発を
手掛けるタベルモに出資
- 3 2018年6月15日、7月27日/ペルー
金属グループ
ケジャベコ銅鉱山の権益を追加取得、
および開発意思決定
- 4 2018年8月1日/日本
地球環境・インフラ事業グループ
福岡空港特定運営事業等に関する
実施契約を締結 [詳細はP11へ](#)
- 5 2018年8月7日/日本
生活産業グループ
米飯・惣菜製造販売会社の
株式会社グルメリカを子会社化
- 6 2018年8月17日/バングラデシュ
地球環境・インフラ事業グループ、エネルギー事業グループ、機械グループ
液化天然ガス受入基地事業に参画
- 7 2018年8月24日/米国
生活産業グループ
当社子会社Indiana Packers Corporationが
Specialty Foods Groupの株式を取得
- 8 2018年8月30日/ベトナム
生活産業グループ
ユニクロベトナム事業のための合弁会社を設立
- 9 2018年9月10日/アフリカ地域
地球環境・インフラ事業グループ
アフリカでのオフグリッド分散電源事業に参画
- 10 2018年9月14日/シンガポール
新産業金融事業グループ
アジア諸国での複合都市開発を担う新会社を設立
- 11 2018年10月2日/カナダ
エネルギー事業グループ
LNGカナダプロジェクトの最終投資決定
[詳細はP10へ](#)



プロジェクト完成予想図。2020年代中頃に生産を開始し、生産期間は40年間を予定。三菱商事の持分比率は15%

LNGカナダプロジェクトの最終投資決定

エネルギー事業グループ

2018年10月2日、三菱商事はカナダのブリティッシュ・コロンビア(BC)州で進めているLNGカナダプロジェクトの最終投資決定を行いました。このプロジェクトは、Shell(英国、オランダ)、PETRONAS(マレーシア)、PetroChina(中国)、KOGAS(韓国)と共同で展開するカナダ初の大型液化天然ガス(LNG)事業です。これにより、日本を中心としたアジアの需要家にとって、地理的に近いカナダの豊富な天然ガスという、新たなLNGの安定供給元が加わります。

本プロジェクトでは年間1,400万トンの生産能力を持つ天然ガス液化設備(三菱商事の持分は210万トン)をBC州キティマツ港に建設し、アジアを中心にLNGを供給していきます。また、同州で開発中のMontney事業*からの原料ガス供給により、三菱商事はカナダにおいて上流から中流にわたる天然ガス・バリューチェーンを構築します。

約50年にわたるLNG事業実績を持つ三菱商事は、本プロジェクトを通じて西カナダの雇用拡大、経済発展に寄与するとともに、環境負荷の低いLNG事業の推進とエネルギーの安定供給に貢献することで、経済価値・社会価値・環境価値の三価値同時実現を目指します。

※三菱商事がBC州にて推進中のシェールガス開発事業。今号の表紙写真は、同事業の掘削現場。

キティマツ港



ビジネスハイライト

国際線地区イメージ。2025年の増設滑走路の供用開始に合わせて、旅客数1,600万人対応の国際線旅客ビル施設に拡充を目指す

福岡空港特定運営事業等に関する実施契約を締結

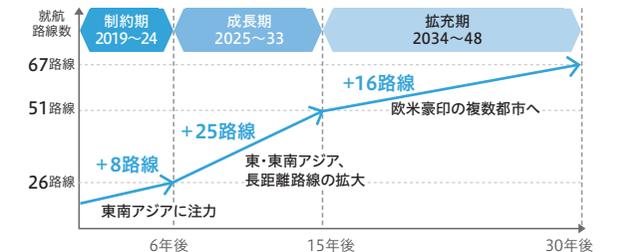
地球環境・インフラ事業グループ

2018年8月1日、福岡エアポートホールディングスを代表企業として、西日本鉄道、三菱商事、Changi Airports International Pte. Ltd.(シンガポール)、九州電力で構成されるコンソーシアム、「福岡エアポートHDグループ」が出資する福岡国際空港株式会社は、福岡空港特定運営事業等公共施設等運営権実施契約を締結しました。これにより、三菱商事は、福岡空港運営事業に参画することとなりました。

旅行者やエアラインから選ばれる空港へと発展させるべく、2019年4月1日からの空港運営事業の開始に向けて準備を進めていきます。具体的には、分かりやすい着陸料金体系や路線の定着を図る長期割引の導入などで国際線・国内線の航空ネットワーク拡大に取り組みます。旅行者・訪問客には、

チェックインや保安検査等におけるより利便性の高いサービスの提供に加え、飲食、物販、エンターテインメント等での斬新な商業展開で、楽しく過ごせる空港づくりを目指します。また、地域との共生を継承、実施しつつ安全・安心な空港運営を通じて、空港周辺地域の活性化と九州・西日本の経済発展に貢献していきます。

トップクラスの国際空港に向けて



国内線地区のイメージ。都市型空港として都市の役割、機能の一部を補完する「エアポートシティ」の実現に向け、ホテルやオフィス機能に加え、複合商業施設の新設などで集客機能を強化